

ハイテム ネズミ・鳥インフルエンザ フリー鶏舎を本格推進 『ベルコンシヤッター』の開発に成功

ハイテムでは、将来的には建物部材の工場生産比率を高めたプレファブ化を実現し、性能を高めた上、価格は在来工法並みを目指す。

また、ハイテムLHシステムの展開にあたっては「建築施工会社との連携を積極的に進めたい」としている。

集卵コンベアには、密閉性を向上させたパーコンシヤッターを標準装備する。

③入気口・ドアなどの開口、建物フレームと断熱材、基礎との取り合いなど、ネズミ・鳥インフルエンザフリーを目指して徹底研究した鶏舎を、ハイテムLHシステムとして構築する。

ハイテムが開発したベルコンシヤッターは、ベルトコンベアが鶏舎壁を貫通する部分をフレームレスとし、ここにシヤッターを設け（特許申請中）、コンベアの稼働スイッチと連動させる方式

を基本としている（説明左上図参照）。

ハイテムではこれを機に、次の3点を柱にネズミ・鳥インフルエンザフリーを目指した「ハイテムLH（レイヤーハウシステム）」を本格的に推進している。

①ベルコンシヤッターを標準装備する。

②ネズミの通路となる

（株）ハイテム（安田勝彦 社長）は、鳥インフルエンザ発生要因の一つとされる野ネズミ、イタチなどの侵入を防止するため、鶏舎の鶏糞搬出口の完全遮へいに取り組み、鶏糞の搬出に特化した格納方式「ステンレスフレーム式」の納入を開始しているが（本紙2月25日号掲載）、さらに

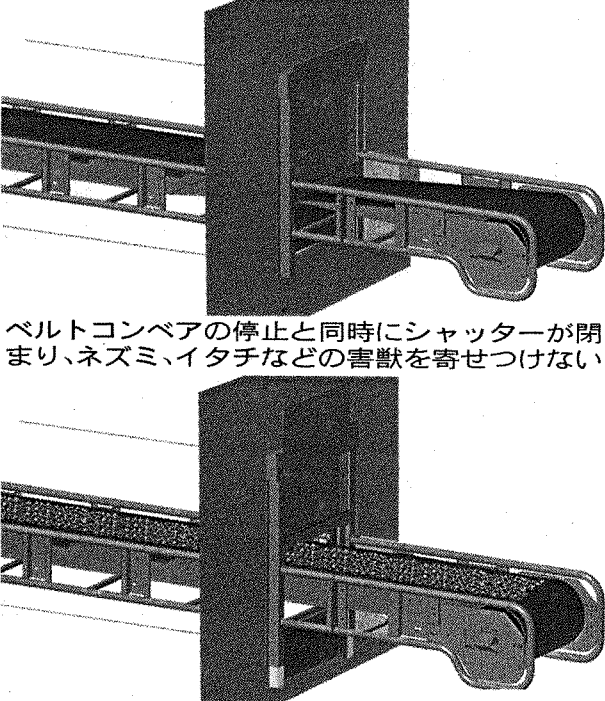
イタチ類が野外環境で野鳥を介してHPAIウイルスに暴露されている可

り合い（結合部分の結合方法や、位置の調整方法）が容易な画期的な方式「ベルコンシヤッター」の開発に成功したと発表した。

令和2年度に発生した高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の疫学調査では、鶏舎内に野ネズミ、イタチなどの小型野生動物が侵入した可能性が報告されている。

鳥取大学農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学

研究センターの山口剛士教授は、鶏病研究会報第55巻増刊号（2019年10月）で報告した「野生動物の鶏舎内侵入」の中で、①野ネズミは鶏舎の集卵用コンベアや除糞ベルトの出入り口、排水口などから日常的に鶏舎内外を往来し、鶏舎内に病原体を持ち込む可能性がある②イタチやテンなどの野生動物が鶏舎内のネズミを捕食する様子も観察されていることから、



ベルトコンベアの停止と同時にシャッターが閉まり、ネズミ、イタチなどの害獣を寄せつけない

ベルトコンベアの稼働スイッチをオンにすると、シャッターが開く